

導入促進へ療法士を派遣

淡路景観園芸学校

園芸療法で お年寄りが 生き生き！

淡路市の県立淡路景観園芸学校が14日、同市大町畑の介護老人保健施設「津名白寿苑」に園芸療法士を派遣し、お年寄りたちに園芸療法を施した。同校が今月から始めた「園芸療法導入促進事業」の一環として、この日初めて実施した。

同校では02年度に園芸療法課程（1年制、定員15人）を創設。現在62人が同課程を修了して園芸療法士になり、県内外の病院や福祉施設などに勤務している。

今年10月には同課程を修了した53人が県園芸

療法士会を設立。園芸療法の普及、啓発活動に取り組んでいる。

さらに同校では今月、県内の医療・福祉施設に修了生を派遣する導入促進事業を開始。その第1弾として、同課程の4期生で同校非常勤職員、牧村聡子さん(25)が白寿苑を訪れた。

同苑では、入所している80歳代の男女4人が談話室に集まり、約1時間、寄せ植えを体験した。スコップで植木鉢に土を入れ、赤やピンク、白色の花を咲かせているサクラソウ科のプリムラ・ポリアンサを植栽。さらにクロッカスの球根、緑黄色野菜のロケットサラダの種も同じ鉢に植えた。

85歳の女性は「土には久しぶりに触った。主



お年寄りに園芸療法を施す牧村聡子さん（右から3人目）＝淡路市大町畑で

人と果樹園をしていた頃を思い出した」と笑顔で話した。白寿苑の作業療法士、長倉寿子さん(45)は「みなさん表情がいきいきして、とても楽しそう。土に触ったり、花を育てたりするのは、いい刺激になるようです」と話していた。

この事業では、淡路市や南あわじ市、姫路市などの老人福祉施設計4カ所5グループに園芸療法士を派遣する予定だ。来年3月まで毎月1回、同じ施設を訪れて園芸療法を施すことにしている。

同校の中谷義孝・普及指導課長は「園芸療法を多くの人に知ってもらい、将来、多くの施設で導入してもらいたい」と話している。

平成18年(1月15日(水))
朝日新聞 朝・夕
32頁 淡路版